



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ナーナイ語の複文について：条件形式の使い分けを中心として
Author(s)	風間，伸次郎
Citation	北方言語研究, 1, 115-138
Issue Date	2011-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45234
Type	departmental bulletin paper
File Information	nls-1-07.pdf



ナーナイ語の複文について — 条件形式の使い分けを中心として —

風 間 伸 次 郎
(東京外国語大学)

0. はじめに

0.1. 本稿の目的と概要

本稿は、大きく2つの部分よりなる。

まず前半では、Tsunoda (2010) による複文における五段階 (Five Levels of subordination) に関する調査例文 (questionnaire) に基づき、ナーナイ語¹の理由 (Causal) と条件 (Conditional) と逆接 (Counter-expectational) のデータを示す (1. 予備調査)。

次に後半では、この中から特に条件表現において観察される諸形式の使い分けを取りあげ、コーパスからの帰納的な分析によって、その使い分けの条件を明らかにする (2. ナーナイ語の条件表現)。そこでは日本語との対照も行う。

0.2. 理論的背景

角田 (2004) では、複文における従属節と主節の意味関係に関して、次の5つのレベルを提案している。

I 「現象描写」、II 「判断」、III 「働きかけ」、IV 「判断の根拠」、V 「発話行為の前提」

この5つのレベルは日本語において、種々の接続表現の使い分けや、接続表現における文末のモダリティの出現に大きく関わっているという (角田 2004)。こうしたレベルの違いは、中右 (1986, 1994) や Sweetser (1990) の提案する3つの領域を発展させたものであり、英語をはじめとするいくつかの日本語以外の言語においても、その実効性が明らかになっている。本稿では、こうした理論的背景のもと、まずはナーナイ語の複文 (中でも特にその条件表現) における五段階による分析の有効性を検討する。

0.3. ナーナイ語の複文

本節では、先行研究の記述も整理しつつ、ナーナイ語においてさまざまな複文を構成する諸要素を概観する。なおここでいう複文とは、副詞的な従属節 (adverbial clause) よりなるものを指す。したがって連体的な節、いわゆる関係節については今回は扱わない。ナー

¹ ナーナイ語は、ロシア極東ハバロフスク州のアムール河中流域に話される言語で、話者数は約3000人とされている。ナーナイ語には次のような音素がある: /p, t, č[tc], k, b, d, j[ɕ], g, m, n, ŋ[j], ŋ, l, r, s, x, w, j, i, [e], ə, a, o[ɔ], u/. 本稿では音素表記を用いる。= は付属語境界を示す。以下で大文字の A, O, I はそれぞれ母音調和 (a~ə, o~u, i~i) による異形態を代表するものとする。系統的には、ナーナイ語はツングース諸語の一つである。類型論的には、SOVでHead-finalな語順をもつ接尾型の膠着的言語である。格表示をする点では従属部標示型だが、属格がなく、所有人称によって所有構造を表現する点では主要部標示型の言語であるといえる。なおナーナイ語の文法全般に関しては、風間(2010)も参照されたい。

ナイ語の複文は主に次の2つのやり方によって形成される。

- I. 副動詞によるもの
- II. 格などを伴った形動詞によるもの

他方、副詞的な従属節 (adverbial clause) を意味の観点から通言語的に分類しているものがある。Tsunoda (2010) では、Thompson, Longacre and Hwang (2007: 243) に基づき、下記のような15種類に副詞節を分類している。

Time (temporal sequence, 'after', 'before'), Location/locative, Manner, Purpose, Negative purpose, Circumstantial, Reason, Conditional, Negative conditional, Concessive conditional, Concessive, Substantive, Additive, Speech act, Consequence/result

以下では、まず上記のような「形」と「意味」の両面から、ナーナイ語の複文の形成要素について整理しておく。これは筆者のこれまでの研究および後述する先行研究 (Avrorin 1961) に基づくものである。諸形式に関する帰納的な検証は後述の第1節において行う。

表1: I. 副動詞 (converb)

非 人 称	同時副動詞 [temporal sequence / simultaneity]	～して、～しながら	-mI (SG)	-mAArI (PL)
	条件副動詞 [conditional]	～すると	-pI (SG)	-pAArI (PL)
	先行副動詞 [temporal sequence]	～してから	-rAA ~ -dAA ~ -dArAA	
	限界副動詞 [temporal]	～するまで	-dAlA	
人 称	条件・時間副動詞 [temporal sequence / conditional]	～すると	-OčIA[-PERS]	
	目的副動詞 [purpose]	～するために	-(pO)gO[-PERS]	

副動詞は、形態的な観点から、非人称副動詞と人称副動詞の二つに分けることができる。人称副動詞は人称によって活用し、主節とは異なる主語をとることができる（もしくは主節とは別の主語をとらなければならない）。非人称副動詞は不変化であるか、もしくは数に関してのみ変化し、ふつうは主節と同じ主語をとる。ナーナイ語の動詞に関する文法書でもっとも詳細なものは Avrorin (1961) であるが、Avrorin (1961: 138-176) は上の表の6つの副動詞の他に、頻度の低い副動詞を3つあげている。Avrorin (1961: 138-176) はさらに、形動詞による分析的な形であるにもかかわらず、下記の表の最初の形式（[形動詞+道具格+人称]）のみを副動詞のグループに入れて扱っている。

表 2: 11. 格などを伴った形動詞 (participle, グロスでは PTCP) etc.

形動詞＋道具格＋人称 [temporal]	～するとすぐに	-I-ŋI[-pers] gəsə -PRS.PTCP-INS-PERS together
形動詞＋与格＋人称 [temporal (simultaneity)]	～する時に ／～している時に	-I-dO[-OBL-PERS] -PRS.PTCP-DAT-PERS
形動詞＋人称 場所名詞＋処格 [temporal ('before')]	～する前に	-I[-PERS] ʒulɪə-lə-ni -PRS.PTCP-PERS before-LOC-3SG
形動詞＋人称 場所名詞＋処格 [temporal (after)]	～した後に	-xAn[-PERS] xamɪa-la-nɪ -PST.PTCP-PERS after-LOC-3SG
否定小詞 [語幹] ＋不定語尾 [negative conditional: 'unless']	～しないうちは ／～しないうちに	əčɪə V[-INF] NEG.PST
(副動詞) ／形動詞＋付属語 [concessive conditional]	(たとえ) ～しても	(-pl) -COND.CONV / -I/-xAn(=dAA) / -PRS.PTCP/-PST.PTCP(=CLT)
形動詞＋処格＋人称 [location]	～したところに	-xAn-dOla[-PERS] -PST.PTCP-LOC-PERS
形動詞＋付属語 [manner]	～したように	-I/-xAn=mAt -PRS.PTCP/-PST.PTCP=CLT
形動詞＋道具格＋人称 [purpose]	～するように	-I-ŋI-A[-PERS] -PRS.PTCP-INS-OBL-PERS
否定形動詞＋道具格＋人称 [negative purpose]	～しないように	-AsI-ŋI-A[-PERS] -NEG.PRS-INS-OBL-3SG

形動詞は、この言語において、修飾的（連体的）機能と名詞的（準体的）機能を併せ持つ実詞（nomen）的な準動詞形である。これが格や場所名詞（「前」、「後」など、時間に転用される）を随えることによって、さまざまな従属節を形成することができる。

以下の例文は、全て風間（2000, 2001, 2002, 2005, 2006, 2007a）から抽出した自然な発話や叙述である。上記の表 2 の 9 つの区分にそれぞれ対応した例文をあげている。ただし、フィラーを省略したり、名詞をより一般的なものに変えたり、若干の変更を加えている。コーパスは全体で約 1200 ページ、10 万語程度のものである。

1. Time, temporal (1) (simultaneity):

- (1) tɛi əkɬə sɔŋgo-ɪ-do-a-nɪ pɪkɬə-nɪ=dəə gəsə sɔŋgo-ɪ-nɪ.
that woman cry-PRS.PTCP-DAT-OBL-3SG child-3SG=CLT together cry-PRS.PTCP-3SG
「その女が泣いている時に、その子供も一緒に泣いている」
- (2) damxɪ-wa omɪ-ɪ-do-a-nɪ=tol tɛi əkɬə xəm ta-ɪ-nɪ=goanɪ.
cigarette-ACC smoke-DAT-PRS.PTCP-OBL-3SG=CLT that woman all do-PRS.PTCP-3SG=CLT

「タバコを彼が吸っている間に、その女は全てやってしまうのだ」

- (3) *təi əktə-kəən ii-rii-wə-ni ičə-məəri inəktə-lu-xə-či=goani.*
 that woman-DIM enter-PRS.PTCP-ACC-3SG see-SIM.CONV.PL laugh-INC-PST.PTCP-3PL=CLT
 「その女の子が入って来るのを見て彼らは笑い出した」

なおこの(3)は副詞的な従属節によるものではなく、形動詞の名詞的用法による表現になっている。

2. Time, temporal (2) ('before'):

- (4) *naɪ ʃiɹu-i-ni ʃuliə-lə-ni sia-roo.*
 people return-PRS.PTCP-3SG before-LOC-3SG eat-IMP
 「人が戻って来る前に食べろ」

3. Time, temporal (3) ('after'):

- (5) *əʃi-ni ənə-xə-ni xamɹa-la-nɪ piktə-gu-ji baa-xa-nɪ*
 husband-3SG go-PST.PTCP-3SG after-LOC-3SG child-DESIG-REF.SG get-PST.PTCP-3SG
xusə-kəəm-bə.
 man-DIM-ACC
 「夫が出かけた後に（その妻は）子供を産んだ、男の子を」

4. Negative conditional:

- (6) *təi naɪ=gulə, daɪ, mana-mi=xəi əčɪə omi-a*
 that man=CLT pipe run.out-SIM.CONV=CLT NEG drink-INF
təi əktə ələə xəm xoʃi-xan pujuu-rii.
 that woman already all finish-PST.PTCP cook-PRS.PTCP
 「その人が、キセル（のタバコ）を吸い尽くさないうちに、その女はもう全て終えた、料理するのを」

5. Concessive conditional:

- (7) *xoonɪ tugbu-gu-uri, taosɪ too-pɪ.*
 how lower-ASP-IMPERS.PTCP there go.up-COND
 「どうやって下ろしたらいいだろうか、あそこに登れたとしても」
- (8) *xaosɪ=daa ənə-əsi, xaosɪ=daa čočə-xan=daa=da.*
 where.to=CLT go-NEG.PRS where.to=CLT run.away-PST.PTCP=CLT=CLT
 「どこへも逃げられはしない、どこへ逃げたとしてもだ」

6. Location, locative:

- (9) oosi-go-raa boa-či nangala-xan-dola-ni xaisi morin jiju-xən.
 clear-ASP-ANT outside-DIR throw-PST.PTCP-LOC-3SG again horse return-PST.PTCP
 「掃除をしてから外へ（ゴミを）捨てていたところに再び馬が戻って来た」

7. Manner:

- (10) buə xai-xa-po=**mat**, ta-ŋaa-či=ma.
 1PL.PRN do.what-PST.PTCP-1PL=CLT do-FUT.IND-2SG=CLT
 「オレたちがああしたように、おまえはするだろう」
- (11) nai xooni agbimbo-go-i=**mat** agbimbo-go-xa-či=goani.
 person how take.out-ASP-PRS.PTCP=CLT take.out-ASP-PST.PTCP-3PL=CLT
 「人がどのようにか引き出したように彼らは引き出したのだ」

8. Purpose:

- (12) uləən əm bočo=maa OSI-I-**ji-a-ni** nai ui-xən.
 well as.if material=like become-PRS.PTCP-INS-OBL-3SG person saw-PST.PTCP
 「良い、まるで布のようになるように人は縫った」
- (13) malo-do səkčia-xə-či=goani ao-go-a-**či**.
 main.place-DAT spread-PST.PTCP-3PL=CLT lie-PURP-OBL-3PL
 「真ん中の席に敷いたのだ、横になるために」

9. Negative purpose:

- (14) aag-bi kori-go-a-ni ango-xa-ni, əm xamačaa=daa
 brother-REF.SG house-DESIG-OBL-3SG make-PST.PTCP-3SG NEG what.kind.of=CLT
 ii-rəsi-**ji-a-ni**.
 enter-NEG.PRS-INS-OBL-3SG
 「自分の兄の（葬るための）小屋を彼は作った、何者も入って来ないように」

1. 予備調査

1.1. 聞き出し (elicitation) による調査

ここでは Tsunoda (2010) の 調査例文によって行った調査の調査結果を示す。コンサルタントは、1938 年ナイヒン村 (Naikhin) 生まれの女性である。なお調査では媒介言語にロシア語を使用した。なお Tsunoda (2010) の調査例文は、理由 (Causal, 1.1.1.)、条件 (conditional, 1.1.2.)、逆接 (Concessive/Counter-expectational, 1.1.3.) のそれぞれについての五段階の例文から構成されている。本稿でもこれに従って順に例文を示していくことにする。なお調査した例文中において、() 内の要素はその出現が任意なものである。2 つ以上の表現が可

能であるとされた場合には、{ / } (訳中では { / }) のような形で示した。日本語訳には、ナーナイ語の諸形式により対応したものを付してある。したがって日本語としては多少おかしく感じられるものもあることをことわっておく。

1.1.1. 理由

以下にみるように、理由の副詞節の場合、ほとんどどの場合にも接続表現は用いられず、単純に文を並列する。Level I の文では、tui ta-mi [that.way do-SIM.CONV] という接続詞的な表現を用いることもできるが、これは任意の要素である。理由の意味の実現には、イントネーションも機能しているものと考えられるが、これについての分析・考察は今後の課題である。

• Level I

(Caus-L I-1) “Because the rain fell, the ground is wet.” (target sentence, 以下も同じ)

tugdə tugdə-xə-ni, (tui ta-mi) naa čakpa(-ni).
rain rain-PST.PTCP-3SG that.way do-SIM.CONV ground wet-3SG
「雨が降った、(それで) 地面は濡れている」(逐語的な訳、以下も)

(Caus-L I-2) “Because the child is hungry, he/she is crying.”

piktə ĵəmusi-i-ni, (tui ta-mi) songo-i-ni.
child be.hungry-PTCP.PRS-3SG that.way do-SIM.CONV cry-PRS.PTCP-3SG
「子供はお腹を空かしている、(それで) 泣いている」

• Level II

(Caus-L II-1) “Because the rain fell, the ground must be wet.”

tugdə tugdə-xə-ni bi-ĵərəə, naa čakpa.
rain rain-PST.PTCP-3SG be-FUT.IND.3SG ground wet
「雨が降ったんだろう、地面が濡れている」

naa čakpa, tugdə tugdə-xə-ni.
ground wet rain rain-PST.PTCP-3SG
「地面が濡れている、雨が降った」

(Caus-L II-2) “Because the rain is falling, he has to stay in the house.”

tugdə tugdə-i-ni, ŋoani ĵoog-do tæsi-i-ni=mət aja.
rain rain-PRS.PTCP-3SG 3SG.PRN house-DAT stay-PRS.PTCP-3SG=CLT good
「雨が降っている、彼は家にいるのが良い」

• Level III

(Caus-L III-1) “Don’t go out because the rain is falling.”

boa-čɪ əʃi niə-rə, tugdə tugdə-i-ni.
 outside-DIR PRH go.out-INF rain rain-PRS.PTCP-3SG
 「外へ出るな、雨が降っている」

(Caus-L III-2) “Give the child food because he/she is hungry.”

piktə-wə sia-waan-doo, ʃoani ʃəmusi-i-ni=təni.
 child-ACC eat-CAUS-IMP 3SG.PRN be.hungry-PRS.PTCP-3SG=CLT
 「子供を食べさせろ、彼はお腹が空いているんだろう」

• Level IV

(Caus-L IV-1) “Because the ground is wet, rain fell.”

naa čakpa, sainaə tugdə tugdə-xə-ni.
 ground wet probably rain rain-PST.PTCP-3SG
 「地面が濡れている、たぶん雨が降った」

(Caus-L IV-2) “Because he is alive, the doctor saved him.”

ʃoani ujun, vrach ʃoam-ba-ni xori-xa-ni.
 3SG.PRN alive doctor 3SG.PRN-ACC-3SG save-PST.PTCP-3SG
 「彼は生きている、医者が彼を救った」

• Level V

(Caus-L V-1) “There is food here, because you are looking for food.”

əi-du siaptangɪ, sii ča-wa gələ-gu-i-si?
 this-DAT food 2SG.PRN that-ACC look.for-ASP-PRS.PTCP-2SG
 「ここに食べ物が（あるよ）、おまえはそれを求めている（よね）？」

(Caus-L V-2) “There is water here, because you are/look thirsty.”

əi-du muə bi-i, samaa sii omi-mosi-i-si?
 this-DAT water be-PRS.PTCP probably 2SG.PRN drink-OPT-PRS.PTCP-2SG
 「ここに水がある、たぶんおまえは飲みたい（よね）？」

samaa sii omi-mosi-i-si?, əi-du muə bi-i.
 probably 2SG.PRN drink-OPT-PRS.PTCP-2SG this-DAT water be-PRS.PTCP
 「たぶんおまえは飲みたい（よね）？ ここに水があるよ」

1.1.2. 条件

条件表現では、Level の違いにしたがって、異なった形式が現れた。整理すると次のようになる。

表 3: 条件の五段階に現れる諸形式

Level I	副動詞 -OčIA / 接続詞 OSINI
Level II	副動詞 -mI / 接続詞 OSINI
Level III	接続詞 OSINI
Level IV	接続詞 OSINI
Level IV	接続詞 OSINI

この使い分けについては、2 節で詳しく考察する。

• Level I

(Cond-L I-1) “If spring comes, flowers bloom.”

ňəŋňə-gu-**učia**-ni, čáčaka {sila-l. / sila-žaraa}.
 spring.come-ASP-COND-3SG flower bloom-PRS.PTCP bloom-FUT.IND.3SG
 「春になれば花が {咲く／咲くだろう}」

(Cond-L I-2) “If rain falls, I always stay in the house.”

tugdə tugdə-i-ni **osmI**, mii joog-do {təəsi-əm-bi / təəsi-i-jə}.
 rain rain-PRS.PTCP-3SG OSINI 1SG.PRN house-DAT stay-PRS.IND-1SG stay-PRS.PTCP-1SG
 「雨が降るなら、私は家に {いる／いる}」

• Level II

(Cond-L II-1) “If rain falls tomorrow, he has to stay in the house.”

čimana tugdə tugdə-i-ni **osmI**,
 tomorrow rain rain-PRS.PTCP-3SG OSINI

 ŋoani joog-do {təəsi-i-ni / təəsi-i-ni=mət aja}.
 3SG.PRN house-DAT stay-PRS.PTCP-3SG stay-PRS.PTCP-3SG=CLT good
 「明日雨が降るなら、彼は家に {いる／いるのこそよい}」

(Cond-L II-2) “If the child is/becomes hungry, he/she will surely cry.”

piktə jəmusi-lu-**mi**, (nəə) soŋgo-žaraa.
 child be.hungry-INC-SIM.CONV at.once cry-FUT.IND.3SG
 「子供はお腹が空きだしたら、すぐに泣くだろう」

• Level III

(Cond-L III-1) “Don’t go out if rain falls.”

tugdə tugdə-lu-i-ni **osmI**, əji boa-čr niə-rə.
 rain rain-INC-PRS.PTCP-3SG OSINI PRH outside-DIR go.out-INF
 「雨が降り出すなら、外へ出るな」

(Cond-L III-2) “Give the child food if he/she is hungry.”

piktə {jəmu-lu-xə-ni / jəmu-lu-i-ni} **osini**,
child be.hungry-INC-PST.PTCP-3SG be.hungry-INC-PRS.PTCP-3SG OSINI

sia-go-a-ni {buu-ruu / buu-xəri},
eat-PURP-OBL-3SG give-PRS.IMP give-FUT.IMP

「子供が {お腹が空き出した／お腹が空き出す} なら、食べ物を {与えろ／後で与えろ}」

• Level IV

(Cond-L IV-1) “If the ground is wet, rain fell.”

naa čakpa(-ni) **osini**, (samaa) tugdə tugdə-xə-ni.
ground wet-3SG OSINI probably rain rain-PST.PTCP-3SG

「地面が濡れているなら、(たぶん) 雨が降った」

(Cond-L IV-2) “If the child is crying, he/she is hungry.”

piktə songo-i(-ni) **osini**, samaa jəmusi-i(-ni).
child cry-PRS.PTCP-3SG OSINI probably be.hungry-PRS.PTCP-3SG

「子供が泣いているなら、たぶんお腹が空いている」

• Level V

(Cond-L V-1) “There is an umbrella here, if rain is falling.”

tugdə tugdə-i-ni **osini**, əi-du zontik bi-i.
rain rain-PRS.PTCP-3SG OSINI this-DAT umbrella be-PRS.PTCP

「雨が降っているなら、ここに傘がある」

(Cond-L V-2) “There is food here, if you are hungry.”

suə jəmusi-i **osini**, əi-du siaptangɪ bi-i.
2PL.PRN be.hungry OSINI this-DAT food be-PRS.PTCP

「あなたが空腹なら、ここに食べ物がある」

1. 1. 3. 逆接

Level III と Level IV では逆接とみるべき形式が 3 種類現れた。1 つは理由の副詞節のところでもみた tui ta-mi: [that.way do-SIM.CONV] であり、1 つは日本語の「も」に似た機能を示す付属語 =dAA である。もう 1 つは両者の組み合わせ、すなわち tui ta-mi=dAA である。しかしコンサルタントによれば、やはり Level I や Level II でも任意でこれらの要素を用いることができるという。tui ta-mi [that.way do-SIM.CONV] が、理由でも逆接でも用いられるという点にも注意したい。つまり、この形式自体に理由や逆接の機能があるのではなく、その働きは文脈によって決定されるものであると考えられる。

• Level I

(C.E.-L I-1) “Although rain fell, the ground is dry.”

tugdə tugdə-xən, (tui ta-mi) naa, xolgo-kto.
rain rain-PST.PTCP that.way do-SIM.CONV ground dry-ADJVLZ
「雨が降った、(それでいながら) 地面が、乾いている」

tugdə tugdə-xən, xai-mi naa xolgo-kto.
rain rain-PST.PTCP what-SIM.CONV ground dry-ADJVLZ
「雨が降った、どうして地面が乾いているか」

(C.E.-L I-2) “Although rain was falling, he went out.”

tugdə tugdə-xə-ni, ŋoani boa-čɪ niə-xə-ni.
rain rain-PST.PTCP-3SG 3SG.PRN outside-DIR go.out-PST.PTCP-3SG
「雨が降った、彼は外へ出て行った」

tugdə tugdə-i-du-ə-ni, ŋoani boa-čɪ niə-xə-ni.
rain rain-PRS.PTCP-DAT-OBL-3SG 3SG.PRN outside-DIR go.out-PST.PTCP-3SG
「雨が降っている時に、彼は外へ出て行った」

• Level II

(C.E.-L II-1) “Although rain fell, the ground may be dry.”

tugdə xoʃi-xan, samaa naa xolgo-kto.
rain finish-PST.PTCP probably ground dry-ADJVLZ
「雨が止んだ、たぶん地面は乾いている」

(C.E.-L II-2) “Although the rain stopped, he has to stay in the house.”

tugdə (tugdə-mi) xoʃi-xan, ŋoani joog-do dəɾəʃi-i-ni aja.
rain rain-SIM.CONV finish-PST.PTCP 3SG.PRN house-DAT remain-PRS.PTCP-3SG good
「雨が (降るのが) 止んだ、彼は家に残るがよい」

• Level III

(C.E.-L III-1) “Let’s go out although rain is falling.”

tugdə tugdə-i=dəə, boa-čɪ ənə-gu-əri.
rain rain-PRS.PTCP=CLT outside-DIR go-COHOR-REF.PL
「雨が降るけれども、外へ行こう」

(C.E.-L III-2) “Stay in the house although the rain stopped.”

tugdə-mi xoʃi-xan=daa, (xaisi) joog-do tæsi-u.
rain-SIM.CONV finish-PST.PTCP=CLT still house-DAT stay-IMP

「降るのが止んだが、(なお) 家にいろ」

tugdə-mi xoji-xan, **tui** **ta-mi=daa** joog-do tæsi-u.
rain-SIM.CONV finish-PST.PTCP that.way do-SIM.CONV=CLT house-DAT stay-IMP
「降るのが止んだ、それでも家にいろ」

• Level IV

(C.E.-L IV-1) “Although the doctor saved/cured him, he had not been sent for.”

vrach (ñoani) buji-i-wə-ni xori-xa-ni,
doctor 3SG.PRN die-PRS.PTCP-ACC-3SG save-PST.PTCP-3SG

tui **ta-mi=daa** ñoam-ba-ni ui=dəə əčiə gələ-ə.
that.way do-SIM.CONV=CLT 3SG.PRN-ACC-3SG who=CLT NEG.PST ask-INF
「医者が(彼が)死ぬのを救った、それでも彼(医者)を誰も呼ばなかった」

(C.E.-L IV-2) “Although the ground is wet, rain did not fall.”

naa čakpa-laa bi-i, **tui** **ta-mi** tugdə abaa.
ground wet-DIM be-PRS.PTCP that.way do-SIM.CONV rain nothing
「地面がやや濡れている、それでいながら雨は無い」

• Level V

(C.E.-L V-1) “There is food here, although you know this.”

əi-du siaptangi, sii ča-wa saa-rii-si.
this-DAT food 2SG.PRN that-ACC eat-PRS.PTCP-2SG
「ここに食べ物(がある)、おまえはそれを知っている」

(C.E.-L V-2) “Work hard, although I am sorry for you.”

mii (simbiwə) gujiəsi-i-ji, ələə-ŋgu-ji-ə-ni joob-roo.
1SG.PRN 2SG.PRN.ACC feel.pity-PRS.PTCP-1SG enough-ALIEN-INS-OBL-3SG work-IMP
「私は(おまえを)かわいそうに思う、十分に働け」

1.2. コーパスによる確認

若干の例文についての聞き取りを行っただけでは、この言語の状況を十分に捉えたとはいえないだろう。本節では、コーパスでの調査を行うことによって、ナーナイ語に理由や逆接に特化した形式が本当に存在しないのかどうかを確認することにする。

ここでは、日本語の逐語訳を付したテキストである風間(2000, 2001, 2002, 2005, 2006, 2007a)から、日本語訳のほうに現れる「ので」、「から」、「(けれ)ども」の各形式によって検索をかけ、違う機能の形式を拾ってきたものは手作業でこれを取り除いてデータを収集した。むろん予備調査で得た **tui ta-mi(=dAA)** をはじめとする形式のほうから検索をかけ、研究す

る方法も考えられる。しかしこうした方法では、理由等の意味を伴わない単なる（時間的に）継起的連続動作の例が大量に出て来てしまうため、ここではそのような調査は行わない。なお、付属語 =dAA の諸機能に関する帰納的な研究には、風間 (2007b) があるのでこれを参照されたい。

まず理由は、やはり単純な文の並列によって示されており、理由に特化した形式の存在は認められなかった。なお、日本語訳はよりナーナイ語の表現の構成に近いものに改めた。

- (15) nai puŋnə-gu-i-ni ənə-i=goani.
 person chase-ASP-PRS.PTCP-3SG go-PRS.PTCP=CLT
 「人が追いたてる、行くのだ」

- (16) tæi piktə=tənii, muiku-lu-xə-ni lambaka-ʃia niə-rii=goani.
 that child=CLT creep-INC-PST.PTCP-3SG bag-ABL go.out-PRS.PTCP=CLT
 「その子は、這い這いし始めた、袋から出てきてしまうのだ」

他方、次の例に見るように、道具格を伴った形動詞や先行副動詞が理由の意味を実現しているものもあった。

- (17) simbiə, nai əusi nangala-xan-ʃi-a-ni, mimbiə
 2SG.PRN.ACC person here throw-PST.PTCP-INS-OBL-3SG 1SG.PRN.ACC
 ʃi-wəŋ-ki-ni.
 come-CAUS-PST.PTCP-3SG
 「あなたを、人がここへ投げ捨てたので、私をここへ差し向けた」

- (18) mii simbiə nai tui ta-i-wa-ni saa-raa,
 1SG.PRN 2SG.PRN.ACC person that.way do-PRS.PTCP-ACC-3SG know-ANT
 agbiŋ-kiča-mi čila-xam-bi.
 appear-INT-SIM.CONV in.vain-PST.PTCP-1SG
 「僕はあなたを人があんな風にする事を知って、現れようとしたけどできなかったんだ」

次に逆接についてみると、やはりもっぱら付属語 =dAA がその機能で用いられていることがわかる。

- (19) ilamosi-i=dAA apsi-nda-go-i=goani, ʃakpa-či-a-ni.
 feel.ashamed-PRS.PTCP=CLT lie-DIRINT-ASP-PRS.PTCP=CLT side-DIR-OBL-3SG
 「恥ずかしいけれども横になりに行くのだ、そのそばに」

- (20) piktə-gu-ji baa-xan=**daa** xai-ji əə-wuri əmuə=dəə anaa.
 child-DESIG-REF.SG get-PST.PTCP=CLT what-INS cradle-IMPERS.PTCP cradle=CLT nothing
 「子供が生まれたけれども何であやしたらいいだろうか、揺りかごもない」

- (21) nɪlakon bi-i=**dəə** ʒapa-i-si=noo.
 naked be-PRS.PTCP=CLT take-PRS.PTCP=CLT
 「裸だけれども、連れてってくれるの」

文脈によっては、同時副動詞 -mi がこの役割で機能している例も見られる。なお予備調査で得られた tui tami(=daa) がこの役割で機能している例は得られなかった。

- (22) mii=tənii xooni agbiŋ-go-ičā-mi čɪla-xam-bɪ.
 1SG.PRN=CLT how appear-ASP-INT-SIM.CONV in.vain-PST.PTCP-1SG
 「私はどうにか現れ出ようとしてダメだった」

以上、コーパスによって検討・確認してみたが、やはり理由および逆接に特化した形式の存在は認められなかった。したがって以下ではもっぱら条件表現に焦点を絞って考察を進めるものとする。

2. ナーナイ語の条件表現

0.2 や 1.1.2 でみたように、ナーナイ語には条件表現を形成する3つの形式がある。このうち1つは分析的な表現によるもので、残りの2つは副動詞によるものである。以下ではこの3つの形式の使い分けについて中心的に考察する。なお同時副動詞 -mi も条件のような意味を実現することがあるが (Cond-L II-2)、この副動詞は他にもさまざまな用法で用いられるため (逆接の例(8))、今回は分析の対象としない。

本稿では、ナーナイ語の条件表現の使い分けに関して、さらに日本語との対照も若干行う。

次の例に見るように、3つの形式が互いに言い換えられる文も存在する (上記のコンサルタントによる)。したがってこの3つの形式の意味範囲は重なっている部分があると考えられる。現れる文脈の違いや、用いられる形式によって生じるニュアンスの違いはあると考えられる。したがってその説明も本稿の目的である。

- (23) təi ʒobom-ba {xoʒi-i **osmi** / xoʒi-pɪ / xoʒi-očɪa-sɪ,} ɡəsə čaj-ja
 that task-ACC finish-PRS.PTCP OSINI/finish-COND/finish-COND-2SG together tea-ACC
 omi-nda-go.
 drink-DIRINT-COHO
 「その仕事を終えたら、一緒にお茶を飲もう」

2.1. 先行研究

0.2 でもみたように、Avrorin (1961) によれば、ナーナイ語には次のような副動詞がある。

表 4: ナーナイ語の副動詞 (再掲)

		単数	複数
非人称 副動詞	同時副動詞「～しながら、～して」	-mI	-mAArI
	条件副動詞「～すると」	-pI	-pAArI
	先行副動詞「～してから」	-rAA ~ -dAA ~ -dArAA	
	限界副動詞「～するまで」	-dAlA	
人称 副動詞	条件・時間副動詞「～すれば」	-OčIA-[人称]	
	目的副動詞「～しようと、～するため」	-(pO)gO-[人称]	
	緊接副動詞 (分析的な形)「～するとすぐ」	-I-ŋI-[人称]	gəsa

本稿で扱うのは、接続詞 OSINI 「なら」による分析的な表現と、上記の表 4 のうちの条件副動詞 -pI と条件・時間副動詞 -OčIA-[人称] の 3 つである。以下ではまず Avrorin (1961) の要点をまとめる。

・接続詞 OSINI による条件表現 (Avrorin 1961: 251)

OSINI による従属節の動詞が過去の形動詞で、主節の動詞が過去形動詞もしくは仮定法の動詞形の場合に、仮定法 (事実に反する仮定) の意味を持つ。

(24) sii ŋi-či-si osmI, mii ərdəŋgə mədə-wə gisurə-mčə-i.
 2SG.PRN come-PST.PTCP-2SG OSINI 1SG.PRN interesting news-ACC tell-OPT-PRS.PTCP
 「おまえが来たなら、私はおもしろい知らせを話してやったのに」

接続詞 OSINI は、o-「なる」の現在形動詞 3 人称単数形と同音異義語の関係にある。これを起源とするものの、現在では全くの接続詞となっている。

・条件副動詞 -pI (uslovnoe deeprichastie, Avrorin 1961: 150-157)

条件副動詞は数による対立を持つ。歴史的にみて、単複の両形は、<*pA+I, <*pA+wArI のような形に溯る可能性がある。名詞の所有における再帰人称の単数、複数が -I, -(w)ArI であるため、何らかの要素に再帰人称接辞がついて成立した可能性がある。この副動詞は必ず主節と同じ主語を要求する。

条件副動詞は主節に対する因果関係や条件を表示するが、その性質の実現は場合によって差があり、時には単にその動作が主節の動作に先行することのみを示しているようにみえる場合もある。そのような場合には、先行副動詞 -rAA との違いはほとんどなくなり、先行副動詞に置き換えられる場合もある。

(25) waa-iča-I nai, tərək {ŋori-pI/ŋori-raa,} miočala-xa-nI.
 kill-INT-PRS.PTCP person accurate aim-COND/aim-ANT shoot-PST.PTCP-3SG
 「狩りしている人は、正確に狙うと、銃を撃った」

- ・条件・時間副動詞 -OčIA- (uslovno-vremennoe deeprichastie, Avrorin 1961: 157-163)

条件・時間副動詞 -OčIA- は人称によって変化するが、再帰人称はとらない。-pI とは反対に、前件と後件は必ず異主語でなければならない。人称の変化形は次の如くである：1sg -OčIIwA, 2sg -OčIASI, 3sg -OčIANI, 1PL -OčIpOwA, 2PL -OčIASO, 3PL -OčIAČI この変化は、斜格名詞や形動詞のそれと同じタイプである。

2.2. 調査方法と調査結果

風間 (2000, 2001, 2002, 2005, 2006, 2007a) から各形式で検索をかけ、別の形式を拾ってきたものは手作業でこれを取り除いた。得られた各形式の用例数は、OSINI: 209 例、-pI (-pI / -paari / -pæri): 298(239/42/17)例、-OčIA (-očia-[所有人称] / -učia-[所有人称]): 74(35/39)例、の合計 581 例である。

2.3. 分析と考察

2.3.1. 文末の形式

OSINI による条件文の文末には、顕著な偏りがあった。これを表 5 に示す。

表 5: OSINI 条件文における文末述語の形式

定動詞	命令法	現在 (sg/pl)	-rOO/-OO(-sO)	47(39/8)
		未来 (sg/pl)	-xAArI/-xAAsO	12(7/5)
		禁止	əʃi V-(r)A	1
	希求法		-ŋA[-人称]=tAnII	2
	假定法		-mča[-人称]	6
	直說法現在	1sg/2sg/3sg /1pl/2pl/3pl	-(r)AmbI/- (r)AčI/- (r)A /- (r)ApO/- (r)AsO/- (r)Al	15(7/1/4/0/0/3)
	直說法未来	1sg/2sg/3sg /1pl/2pl/3pl	-ǰAAmbI/-ǰAAčI/-ǰArAA~ǰAA=mA /-ǰAApO/-ǰAAsO/-ǰArAl	58(17/24/9/1/7/0)
形動詞	人称形動詞	肯定 (prs/pst)	-I~-rII~-dII/-xAn	23(19/4)
		否定 (prs/pst)	-AsI[-人称]/ -AčI[-人称]	9(8/1)
	非人称形動詞	肯定	-OrI	16
		否定	-wAsI	1
形容詞述語／名詞述語			[Adj]/[N]	19(18/1)
計				209

会話文ではやや異なっては来るものの、ふつうナーナイ語の文の大部分は形動詞で終わり、定動詞はあまり現れない。Avrorin (1961: 65)によれば、動詞全体についてのある統計では形動詞 70%、副動詞 21%、定動詞 9%であったという。これは文末の形式についての統計ではないが、筆者のこれまでの研究における経験からも頷ける数値であり、文末での数値はもっと高い可能性も十分に考えられる。ところが OSINI 条件文においては、定動詞 141

例に対して、形動詞は 49 例しかない。つまり全体の 75% 近くを定動詞が占めている。さらに、禁止も含め、命令の例が 60 例もあって、全体の 30% 強、定動詞の 40% 強を占める。なお希求法もていねいな命令のような意味であるので、広い意味での命令はさらに 2 例あることになる。以下では、頻度の高い順に文例を見てゆく。

・命令法現在単数 (39 例)

- (26) agda-asɪ **osini** ičə-ndə-ruu,
believe-NEG.PRS OSINI see-DIRINT-IMP
「信じないなら見に行け」

- (27) sia-rii **osini** sia-roo, waa-rii **osini** waa-roo,
eat-PRS.PTCP OSINI eat-IMP kill-PRS.PTCP OSINI kill-IMP
「食べるなら食べろ、殺すなら殺せ」

このように同じ動詞を繰り返して、「勝手にすれば良い、」のような意図を伝えるものも多く、18 例もある。どれも 2 人称の行為が従属節に現れ、それに対して話し手が命令する、という文になっている。

・直説法未来 2sg (24 例)

- (28) xatan ənə-i **osini** isi-ʃaa-čɪ=a, əlkəə ənə-i osini
fast go-PRS.PTCP OSINI reach-FUT.IND-2SG=CLT slowly go-PRS.PTCP OSINI

dobda-asɪ-sɪ,
get-NEG.PRS-2SG
「すばやく行くなら着くでしょう、ゆっくり行くなら間に合わない (あなたは)」

やはり 2 人称の行為が条件節にあり、それに対して話し手が判断を加えている。この文全体では警告のニュアンスを示している。

・形動詞肯定現在 (19 例)

- (29) ʃuər buu-xə-sɪ **osini**=tol xəmdə-ni toas kaltara-mɪ
two give-PST.TPCP.2SG OSINI=CLT stomach-3SG ONOMAT burst-SIM.CONV

bu-dii=jə,
die-PRS.PTCP=CLT
「二杯おまえが与えたならば、腹がパチンと裂けて死ぬ」

形動詞は命令など関係がないようだが、これも文全体の意味を考えると、やはり条件節は 2 人称の行為で、それに対する警告の文になっている。

・直説法未来 1sg (17 例)

- (30) nixəli-əsi **osini** mii, mənə ɲaajil-či ənu-ǰəm-bi,
 open-NEG.PRS OSINI 1SG.PRN oneself cousin-DIR leave-FUT.IND-1SG
 「あなたが開けないなら私は、自分の従兄弟たちの所へ行くわ」

命令法の場合と似ているが、今度は 2 人称の行為に対して話し手が一定の行動をとると宣言している。

・非人称形動詞肯定 (16 例)

- (31) naambo-asi-ni **osini**=tol waa-ori,
 hit-NEG.PRS-3SG OSINI=CLT kill-IMPERS
 「当てられないなら殺すべきだ、」

非人称形動詞は「～すべきだ」のような意味であり、やはり聞き手に強く働きかける文になっている。

次に、例の数は多くないが、注目すべき文末形式についてみる。

・仮定法

- (32) un-dii-du-ə-ni, ənu-xən **osini** xai tui o-mča=m=da.
 say-PRS.PTCP-DAT-OBL-3SG leave-PST.PTCP OSINI what that.way become-SUB=CLT=CLT
 「人が言った時に、帰っていたならどうしてこんなことになるのか」

仮定法は、事実に反する仮定の主節で用いられる形である。したがって、逆に言えば、このような形式が文末に現れるということは、**osini** 条件文が反事実的条件を示しうる、ということを証明している。なお反事実的条件文は全部で 24 例あり、**osini** 条件文全体の 11% に及ぶ。

以上のように **osini** 条件文は、命令をはじめ聞き手への働きかけの強い文を形成することがわかる。そのことから予想されるが、大部分の例が会話文中のものである。地の文の例は、12 例（約 6%）しかない。これに対し、-OčIA 条件文では、**osini** 条件文とは大きく異なり、形動詞が 78 例中 30 例と多くを占め、命令法の文は 2 例に過ぎない。会話文は 35 例で、全体の半分にも満たない。-pi 条件文でも命令文は 298 例中 9 例しかなく、やはり形動詞を文末述語としている例がほとんどを占めていた。

さらに興味深いことに、**osini** には名詞に後続してその名詞を主題として取り上げる用法がある。

- (33) ambaan **osini** nəə dəəmbi-su, nai **osini** əji orkisi-ra,
 demon OSINI right.now calm-IMP person OSINI NEG.IMP feel.ill-INF
 「魔物ならばすぐに静まってくれ、人ならば悪く思うな」

日本語の条件形式の1つである「ナラ」には次のような特徴がある。

・「ナラ」の第一の特徴は、話の現場で話し手が受け取ったばかりの情報を仮定的に取り上げることである。主節には、その情報に基づいたその場での話し手の判断・態度が述べられる。一般条件や、反復・習慣、事実条件には用いられない。名詞にも直接接続し、主題を示すことができる。反事実条件文には用いられる。

(以上、日本語記述文法研究会編 2008: 103-105 を要約)

・「ナラ」の用法で最も典型的なのは、聞き手の発言を受ける用法である。「ト・バ・タラ」を用いた条件の文が、ことがらとことがらの依存関係を示すのに対して、「ナラ」の文は、あることがらを仮定することから導かれる帰結（話し手の判断）を後件に述べる。話し手の判断は意志・命令などいろいろな形を取る。ことがらの前後関係は「後件→前件」であってもよい。

(以上、庵他 2000: 225 を要約)

これらの特徴は全て OSINI 条件文にもよくあてはまる。さらに、両者が共に「なる」という意味の動詞から形成された形式であることも興味深い。

2.3.2. 条件節の動詞

次に、-pI 条件文において顕著な傾向が得られたのは、動詞の種類、特に条件節の動詞であった。6 例以上あった動詞を多い順に示せば、次のようであった。

tui ta-pi 「そうすると」 59 例, bi-pi 「いると、あると」 42 例,
 baa(go)-pi 「見つけると、得ると」 21 例, ao-pi 「寝ると」 20 例, osi(go)-pi 「なると」 20 例,
 tota-pi 「そうすると」 17 例, ənə-pi 「行くと」 13 例, omi-pi 「飲むと」 11 例,
 songo(či)-pi 「泣くと」 6 例, tæ(gu)-pi 「座ると」 6 例

まず、tui ta-pi および tota-pi は接続詞のような働きをするものであるために頻度が高い。次に例の多いのは bi-pi であるが、この中には慣用句的なもの [bæktən bi-pi 「しばらくすると」 7 例] がある。さらに、[xadolta bi-pi 「数日経つと」 17 例] も目立つ。「しばらくして」、「数日経って」など、-pI 条件文の条件節の行為は、一定の時間の長さを持っていることが多いようだ。次に、他の述語による典型的な例を示す。

- (34) ao-pi=o sənə-xə-ni.
 sleep-COND=CLT awake-PST.PTCP-3SG
 「しばらく眠ると目が覚めた」

- (35) tui songo-**pi** undiisi puʃin=gulə undiisi,
that.way cry-COND FILLER heroine=CLT FILLER

jada-raa oŋasa-xa-ni.

get.tired-ANT fall.asleep-PST.PTCP-3SG

「そうしてしばらく泣くと女主人公は、疲れて眠り込んだ」

「眠る」、「泣く」の例に見るように、やはり一定の長い時間ある行為を続けた後、主節の行為が起きる、というような例を多く観察することができる。

- (36) əsi=tənii sia-xaal undiisi, bado-sal təə-gu-**pəəri** sia-rii=goani,
now=CLT eat-PST.IND.PL FILLER side-PL sit-ASP-COND.CONV.PL eat-PRS.PTCP=CLT

「今食べた、机の両側に座ると食べるのだ」

この例のように、「座ると」を「座って」に変えても問題のないような、いわゆる確定条件を示す例のあることがわかる。この点で osini 条件文よりも条件文らしくない性質を持っているといえよう。同一主語の確定的な連続動作を示し得る点で、日本語の「ト」とよく似た性質を持っていることがわかる（日本語記述文法研究会編 2008: 108 参照）。

したがって -pi 条件文の特性は、本来「しばらく～してから、しばらく～すると」のような意味の副動詞から展開したものではないかと考えられる。ただし、次のように、「A の場合は A'、B の場合は B'」というような、条件文らしい条件文も確かに見られる。

- (37) orkim-ba sia-**pi** orkim-ba tolkiči-ori,
bad-ACC eat-COND bad-ACC dream-IMPERS

uləəm-bə sia-**pi** uləəm-bə tolkiči-ori,
good-ACC eat-COND good-ACC dream-IMPERS

「悪い物を食うと悪い夢を見るし、良い物を食うと、良い夢を見るというもんさ」

なお先行研究の記述とは異なり、-pi は異主語でも成立する（例文(23)参照）。他にもいくつかの例をコンサルタントに確認していただいた結果、異主語であっても前件の主語が後件の主語に含まれていたり、その所有者であったりすれば -pi が用いられることがわかった。

2.3.3. 条件節の主語

最後に、-OčIA 条件文において特徴的なこととして、条件節の主語をとりあげる。先行研究にあったように、-pi 条件文が基本的に同主語しか許さないのに対し、-OčIA 条件文は異主語しか許さない。ここで -OčIA 条件文の従属節の主語に注目すると、次のように季節や時間帯などを示す名詞の例が多いことに気がつく（74 例中 15 例、約 20%）。先行研究が条件・時間副動詞と呼んだ所以であろう。人が主語であっても非意志的な動作の例が多くあり、

その条件節はやはり主節の外的状況といった面が強い。

- (38) *joa-go-očia-ni* *ənu-i-či,* *nuktə-gu-i-či.*
summer.come-ASP-COND-3SG leave-PRS.PTCP-3PL move-ASP-PRS.PTCP-3PL
「夏になったら彼らはその地を去る、彼らはその地から引越す」

- (39) *siun* *pakčiraŋ-go-očia-ni* *əu-gu-i* *ta-maari* *waa-iča-i,*
sun get.dark-ASP-COND-3SG go.down-ASP-PRS.PTCP do-SIM.CONV kill-INT-PRS.PTCP
「日が暗くなる頃には下りて来たりして狩りする (彼らは)」

2.3.4 条件表現の使い分けに関するまとめと五段階から見たナーナイ語の条件節

3つの条件文、すなわち、-pI 条件文と-OčIA 条件文と *osini* 条件文の意味範囲は重なっている。したがって例文(23)のように似たような状況を3つの条件文で表現することができる。しかしそのニュアンスはそれぞれ少しずつ異なっているものと考えられる。3つの条件文それぞれでもっとも典型的に観察された例を並べてみよう。

- osini* 条件文： (26) *agdaasi* *osini* *ičəndəruu.* 「信じないのなら、見に行け。」
-pI 条件文： (34) *aopi=o* *sənəxəni.* 「(しばらく) 眠ると、目が覚めた。」
-OčIA 条件文： (38) *joagoočiani* *ənuiči.* 「夏になったら、彼らはその地を去る。」

対照言語学的な指摘を含め、それぞれの形式の特徴をまとめれば、次のようになるだろう。

- ・ *osini* 条件文：もっとも条件らしい条件形で、文全体は聞き手への働きかけなど、**強いモダリティを持つ**。具体的には命令法を中心とした直説法の文になる。もっぱら会話で用いられ、主語は聞き手や話し手であることが多い。形式・機能ともに日本語の「なら」によく似ている。
- ・ -pI 条件文：同一主語の連続動作も示し、同時副動詞や先行副動詞に近い機能を持つ。従属節には**一定以上の長い時間がかかる動作**が主に現れる。機能的には日本語の「と」にやや似ている。
- ・ -OčIA 条件文：必ず異主語をとり、主節の動作に対する**外的な環境**を示す。英語で *when* が *if* に近い機能で用いられることを想起させる。

一般に条件表現は、一方で提題と、もう一方で連続動作とつながっているものと考えることができる(提題と条件の連続性に関しては Haiman (1978) をはじめとする論考がある)。ナーナイ語や日本語におけるいくつかの条件形式の使い分けは、このような状況を反映しているものとみることができよう。

最後に、五段階の観点からナーナイ語の条件表現の使い分けを整理する。五段階の諸特徴は、ひとまず次のようにまとめられよう。

Level I: 主節にモダリティ形式は現れない

Level II: 主節に判断のモダリティが現れる

Level III: 主節に働きかけのモダリティが現れる

Level IV: (結果状態として生じる帰結の命題を仮定し、) その原因を主節で述べる

Level V: (聞き手の状況などを推論・仮定し)、主節で発話行為としての《提案》を行う

-pI 条件文および -OčIA 条件文は、意味的に有標な何らかのモダリティ形式が主節に現れる場合には使えないので、Level II と Level III, Level V では用いられない。Level IV でも、時間的な先後関係が現実での実現とは逆転するため、用いることができない。したがって Level II-V ではもっぱら OSINI 条件文のみが用いられることになる。

他方、Level I では、さらに主節と従属節の主語が同じであるか否か、従属節の行為の時間的性質がどのようなものであるか、などの条件によって、3つの条件表現が使い分けられることになる。

3. まとめ

本稿では、まず Tsunoda (2010) の五段階に関する調査例文に基づき、ナーナイ語における理由と条件、逆接のデータを示した。さらにこれに関してコーパスによる確認を行って、ナーナイ語には理由と逆接に特化した文法形式が存在しないことを示した。次に、条件における諸形式の使い分けをとりあげ、コーパスからの帰納的な分析によって、その使い分けの条件を明らかにした。

[謝辞]

聞き出しに際しての媒介言語であるロシア語の例文は、呉人恵氏が準備されたものを使用させていただいた。桐生和幸氏、下地理則氏からは有益なコメントをいただいた。本誌の査読の方よりいただいたコメントも有益であった。ここに記して感謝申し上げたい。コンサルタントとして協力の労を惜しまなかった L. T. Kile 氏にも深く感謝の意を表したい。

略号一覧

1, 2, 3: 1st person, 2nd person, 3rd person	IND: indicative mood
ABL: ablative	INF: infinitive
ACC: accusative	INS: instrumental case
ADJVLZ: adjectivalizer	INT: intentional
ALIEN: alienable possession	LOC: locative
ANT: anterior converb	NEG: negative
ASP: aspect	OBL: oblique
CAUS: causative	ONOMAT: onomatopoeia
CLT: clitics	OPT: optative mood
COHOR: cohortative mood	PST: past

COND: conditional	PERS: personal
CONV: converb	PL: plural
DAT: dative	PRH: prohibitive
DESIG: designative case	PRN: pronoun
DIM: diminutive	PRS: present
DIR: directive	PTCP: participle
DIRINT: directional intentional	PURP: purposive converb
FILLER: filler	REF: reflexive
FUT: future	SG: singular
IMP: imperative	SIM: simultaneous converb
IMPERS: impersonal voice/impersonal	SUBJ: subjunctive
INC: inchoative aspect	

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク
- 風間伸次郎（2010）『ナーナイの民話と伝説 12 付：ナーナイ語文法概説』ツングース言語文化論集 48. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 角田三枝（2004）『日本語の節・文の接続とモダリティ』東京：くろしお出版
- 中右実（1986）「英語における文の接続」『日本語学』 vol.5, 10 月号 76-85.
- 中右実（1994）「日英条件表現の対照」『日本語学』 vol.13, 8 月号 42-51.
- 日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法 6: 第 11 部 複文』東京：くろしお出版
- Avrorin, V. A. (1961) *Grammatika nanajskogo jazyka, t. II*. Moskva/Leningrad : AN SSSR.
- Haiman, J. (1978) Conditionals are topics. *Language* 54, 565-589.
- Sweetser, E. E. (1990) *From etymology to pragmatics: Metaphorical and cultural aspects of semantic structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Thompson, S. A., R. E. Longacre and S. J. J. Hwang (2007) Adverbial clauses. In Timothy Shopen (ed.), *Language typology and syntactic description Vol.2 Complex constructions, second edition*, 237-300. Cambridge: Cambridge University Press.
- Tsunoda, T. (2010) *Questionnaire for five levels, 7/26 version*. Typescript. Tachikawa: National Institute for Japanese Language and Linguistics.

コーパス資料

- 風間伸次郎（2000）『ナーナイの民話と伝説 5』ツングース言語文化論集 14. 東京：東京外国語大学
- 風間伸次郎（2001）『ナーナイの民話と伝説 6』ツングース言語文化論集 15. 文部省特定領域研究(A) 環北太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 報告書. A2-005.

- 吹田：大阪学院大学
- 風間伸次郎（2002）『ナーナイの民話と伝説 7』 ツングース言語文化論集 18. 文部省特定領域研究(A) 環北太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究 報告書. A2-020. 吹田：大阪学院大学
- 風間伸次郎（2005）『ナーナイの民話と伝説 8』 ツングース言語文化論集 27. 千葉：千葉大学
- 風間伸次郎（2006）『ナーナイの民話と伝説 9』 ツングース言語文化論集 32. 千葉：千葉大学
- 風間伸次郎（2007a）『ナーナイの民話と伝説 10』 ツングース言語文化論集 36. 札幌：北海道大学大学院文学研究科
- 風間伸次郎（2007b）「ナーナイ語とウデヘ語の付属語について」 『アジア・アフリカの言語と言語学 特集 クリティックの諸相』 2. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- 風間伸次郎（2010）『ナーナイの民話と伝説 12 付：ナーナイ語文法概説』 ツングース言語文化論集 48. 府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

The Complex Sentence in Nanai: with a Special Focus on Conditionals

Shinjiro KAZAMA

(Tokyo University of Foreign Studies)

The goals of this paper are two-fold: first, it aims to present the result of the questionnaire survey for Five Levels of Subordination (Tsunoda 2010) in Nanai, focusing on Causal, Conditional, and Counter-expectational. Second, it aims to provide an empirical account for the choice of different forms of Nanai conditionals, by making use of corpus data.

Nanai has three major forms that encode conditional relations. One is analytical, and the other two make use of converbs. This paper examines each of these three forms and how they are differentiated.

<i>təi</i>	<i>ʃobom-ba</i>	{ <i>xoʃi-I osini</i> / <i>xoʃi-pi</i> / <i>xoʃi-očta-si</i> , }
that	task-ACC	finish-PRS.PTCP OSiNi/finish-COND/finish-COND-2SG
<i>gəsə</i>	<i>čaj-ja</i>	<i>omi-nda-go.</i>
together	tea-ACC	drink-DIRINT-COHOR

‘When you have finished the work, let’s drink tea together.’

The three conditional constructions cover different semantic areas. So, even though a similar situation like the sentence above may be encoded by each of these

constructions, each construction forces a slightly different semantic interpretation. The typical examples of each construction are as follows.

osim conditional : *agdaasɪ osim ičəndəruu*. ‘If you don’t believe, go and see it.’

-pI conditional : *aopɪ=o sənəxəni*. ‘After he slept (for a while), he woke up.’

-OčIA conditional : *joagoočianɪ ənuiči*. ‘When summer comes, they will leave that place.’

These constructions and their characteristics are summarized as follows.

- The *osim* conditional: it is a prototypical conditional construction, and it has a strong modal force that is directed to the hearer, formally manifested in the main clause predicate inflection (especially imperative). It occurs exclusively in conversations, and the subject may be either the speaker or the hearer. It is similar in form and function to Japanese *nara*.

- The *-pI* conditional: It may denote sequential events performed by the same subject, a characteristic also common in the simultaneous and anterior converbs. The subordinate clause often denote an action that has a certain duration of time. It is somewhat like Japanese *to* in terms of function.

- The *-OčIA* conditional: The conditional clause must take a different subject from that of the main clause, and the subject is a circumstantial element of the event denoted in the main clause. This reminds us of the fact that English *when* may have a function similar to *if*.

In general, conditional expressions are like topicalization on the one hand, and sequential action on the other. This cross-linguistic observation is confirmed in several conditionals in Nanai and Japanese that we have examined in this paper.

(かざま・しんじろう kazamas@tufs.ac.jp)